

体験入隊・スカウトフェア ヒント事例集



目 次

●開催時期	1
●開催場所	1
●プログラム	2
●広 報	3
●普段の広報活動	5
●マスコミの利用	5
●ニュースリリースの作り方	6
●その他の工夫	7
●思ったように人が集まらなかったら	8
●問題点	9
●保 険	9
●別紙（参考資料）	1～6

これはあくまでもヒント・事例集です。ベースは兵庫県連盟で発行しているもので、当県内での事例を盛り込んだものです。

団の大きさや地域の特性などを考え合わせ、ご自分の団に使いやすいノウハウ集を完成させてください。

試行錯誤を繰り返し、これは！と思う策を発見された団は、県連にも教えてください。

では、入団増をめざし、団存続に向けて頑張りましょう！

● 開催時期

- ・ 気候がいい時期。春（4～5月）秋（10～11月）が多い
- ・ 一般的に、春は新1年生対象、秋はカブとビーバー対象
- ・ 学校行事が重ならない時
- ・ 効果が上がるのは春（新学期で何かを始めやすい）
- ・ 3月開催だと、新1年生に広報しにくい。新1年生に限っていえば、生活が落ち着く4月後半～5月に実施している。
- ・ 暮れから、年初めに行い新一年生に対応している団もある。
- ・ ボーイスカウトの年度は、秋始まりなことを説明すれば、秋でも可能。（はじめ重視で、最初から入れたいという保護者も多い）
- ・ 夏休み前
- ・ 夏休み中
 - 子どもが暇をもてあましているので、参加は多い 保護者参加の場合、お父さんの参加が期待できる。（パパ・ママ・キッズ ワンデイ キャンプ）
 - 夏休みの宿題に役立つ工作・実験・観察のプログラムは人気。
 - ⇒自団の夏の行事もあって、忙しすぎて手が回らない。
- ・ 特にイベントとしての体験入隊会は設けず、3ヵ月程度を体験月間として通常の活動で対応している団もある。
（1日のみだとその日に予定がある子が来ない。複数日あれば体験者が都合を付けやすい）

● 開催場所

- ・ 子ども連れの多い公園（たまたま来た人にも参加してもらえる）
- ・ 道路高架の下にある公園（雨のときも実施できる）
- ・ ショッピングセンター内の広場（スカウト展はボーイに興味のない人にも見てもらえる）
- ・ 育成区域内の公園（気軽に参加してもらえる。遠くまで歩くのは無理？
近場の公園で開催した方が、人が集まるが物足りないという声もある）
- ・ 特別な場所でなく、恒常的な活動場所。
- ・ 地域行事に協力し、ブースを設ける。
- ・ バザーの時に勧誘ブースや体験コーナーを設ける。
- ・ 地区行事（ラリー、BP祭など）と一緒にすることで、各団の人の少なさをカバーでき、各団でポイントを担当することで負担が少なくて済む ⇒ 反面、開催場所に遠い地域は参加者が少ない。 地区内を小さく区切るか、会場を持ち回りにすることでカバーする。
- ・ 団全体の行事として全部門協力して行い人員の少なさをカバーしている。
- ・ 「わんぱくサバイバル」を地区で実施している。

● プログラム

「学校ではできない体験」「ここでしかできないこと」を売り込む

- ・ 家族で参加できるもの：ファミリーハイク、ワンデイキャンプ、ポイントハイク、野外料理、ゲーム、ミニバザー
- ・ ワイルド派：カヌー教室、滑車ロープ、ツリーハウス、秘密基地、パイオニアリング、大しっぽ取り大会
- ・ 保護者にも好評なお勉強系：自然観察（ウミガメ産卵、ホテル見物、カニとりなど）エコ活動（ゴミひろい、環境を考えるプログラム）防災関連（AED体験、起振車など）※ 国際交流関係もポイントが高い
- ・ 食べ物の効果は絶大。付き添いの保護者にも食べてもらうのがポイント。
飯ごう炊飯、カレー、豚汁、バーベキュー 自分たちで採ってその場で食べる（芋ほり→やきいも、山菜採り→天ぷら、ヨモギ摘み→草もち、魚つかみとり→塩焼きなど）マシュマロやツイストパン、ソーセージを子どもに焼かせる（子どもが喜ぶ）1斗缶利用のオーブンでのパン焼き、段ボール箱での燻製作り、バウムクーヘンを焼く、焚き火でピザ（親にアピール）
- ・ 模擬サイトでスカウト気分：テント、立ちかまど、炊事台などを展示し、自由に触れるようにする（保護者に作るところから見せると、より効果的）
- ・ クラフト：キーホルダーや焼き板などワイルド系のおみやげがあると子どもが喜ぶ 貝殻ネックレス、木の実の工作など、その場で材料を集めて作る ブーメラン、竹とんぼ、風車、飛行機などを作ってその場で遊ぶ
- ・ その他 ビーチフラッグ、宝探し（ポケモンカードを探せ！）なども人気
- ・ 開会式・閉会式などは長くなると体験者には退屈。地区行事も同様の危険性を持つ。でもきちっとしたところを見せるのは必要。サッと集まってきちっと整列し、話は短くパッと終わるのが理想的。
- ・ ただのイベントでは差別化ができない。ボーイらしさを見せられる体験会に
- ・ イベントでは入団につながりにくいので、体験入隊会は開催せず、普段の活動に参加してもらっている団もある

● 広 報

- 口コミ(1番効果があり、入団率も高い) 保護者・スカウトに紹介を依頼。友情章の活用を！(子ども同士で勧誘するのが一番。親のフォローも要) 体験入隊前にビーバー・カブの保護者にチラシやパンフレットを渡して、周囲に配ってもらう
- チラシ・スカウト用語ばかりが使われていたり、文字ばかりのチラシは興味を引きにくい。
- イラスト・写真などを入れて楽しそうな様子を目で見てわかるように伝え、体験入隊会に！ 楽しそうな行きたくなるような題名をつける(秘密基地に行こう！ ミステリーウォークなど、ワクワク・ドキドキ感がある)
- カラーで印刷するときれいだが、大量に印刷すると経費がかかりすぎるので 色の紙に黒で印刷という手もある。コピーではなく印刷機利用を利用
※別紙に実施したちらし例や素材例あり
- 学校・園でのチラシ配布(歩留まりは悪いが、広報活動として、まんべんなく告知できるので、年に1度はチラシ配布をする)
- 拒否するところがある(校長の裁量に任されている) 在校生保護者に持って行ってもら。学校側の事務処理が少ないように、印刷して人数分揃え、クラスの連絡箱へお願いする。教育委員会の後援があれば私立幼稚園なども配布可能な場合もある。
- 紙1枚のチラシだと保護者の手まで渡らないので、保護者宛の封筒に入れ学校に依頼している団もある。
- 店舗(小児科なども)・公共施設(公民館)などでのチラシ配布。ツテをたどって置いてもらうよう依頼する。
- 街角の商店の店頭や、主要道路沿いに看板を設置する。
- ポスター ⇒ 目を惹く⇒詳細を知りたくなる、楽しそうなポスターを作る。
- スカウトが描いた絵をポスターにしても好結果。
- スカウトの家だけでなく、自治会の掲示板(自治会によってルールが違うので、必ず確認を)や公民館、学校・幼稚園、スーパー・コンビニ、小児科医などに掲示すると信頼度アップ ↑ ここでも教育委員会後援は威力大
- 市の広報紙：一般参加型のイベントならば掲載の可能性大。参加者の住んでいる場所などで、条件を付けられないので注意(育成区域外からの問い合わせにも親切な対応を) 市役所広報課などにTEL(電話番号は広報紙に記載されている) 日にち・場所・時間・連絡先程度の掲載になる。締切が早いので、大筋が決まったら、早めの連絡をする。
- 地域密着型のフリーペーパーは、地元の情報を求めているので掲載率が高い。体験入隊会やバザーなどの情報は無料で掲載してくれるので、ぜひトライを！

- ・ ホームページの活用 最近の保護者はネットで情報を確認する傾向にあるので、何らかの情報はアップしておきたい。活用している団は、HPからの問い合わせが増えているが、何年も更新していないと却ってきちんとしていない印象を与える。ブログなどを利用して簡単に更新するのも手。全世界の人が見ているという意識を持って編集をし、住所・電話番号など個人情報掲載しない
- ・ 新聞、特に小さな地方紙は地域情報を求めているので活用を。
- ・ 地域FM放送の利用。

☆ 複数組み合わせせて広報活動を行なうことで、相乗効果あり。人間は同じ情報を3回見るとインプットされるという説もあるのでしつこく広報を！

★ 広域で広報を出す場合、育成区域外からの問い合わせもあるが、ボーイスカウト認知度アップのチャンスと思って親切な対応を 申込者の小学校とTELを聞いて該当団から連絡してもらうのがベストだが、TELを教えたがらない場合、該当団連絡先を必ず伝える

写真の利用について

- 子どもの写真がHPやポスターに載ることがイヤという保護者がいるので、年に一度は団の中で確認をする。
- 基本的には、子どもの名前が特定できるような写真の利用の仕方はしない。(名札が大きく写っている場合は、名札部分をぼかすなどの配慮を)
- 新聞取材などの場合は保護者に確認をする。(大概は大歓迎なのですが、注意を)

● 普段の広報活動

制服を着て歩いている人はすべてがボーイの広告塔である。

その自覚を持って行動をする。

- ・ 制服をきちんと着て、見えるところで活動を ・いつも山の中ではなく、たまには地域で活動を心がける。
- ・ 地域の清掃活動などに積極的に参加する。（見る人は見ている）
- ・ 市や地域が主催するイベントに積極的に参加し、ボーイスカウト活動を理解してもらう。
- ・ 市町村広報誌、情報誌や、新聞に、ボーイスカウト活動の記事をもっと多く掲載してもらうよう働きかける。
- ・ 公民館などの公共施設にボーイスカウト紹介のリーフレット等を置く。
- ・ ボーイスカウト活動の啓蒙と、入団希望者のためにホームページを作成する。
- ・ 町内会の回覧板を活用する。
- ・ ケーブルテレビやFMラジオを通して活動を紹介する。
- ・ 地域の夏祭りなど、どんな機会も逃さず広報をする。
- ・ ポスターの掲示をする。（日連のポスター等をスカウトの家や自治会の掲示板へ、商店、病院、スーパーなど）
- ・ スカウト新聞や広報紙を発行して配布する。
- ・ 教育委員会や公民館の講座、幼稚園、学校の授業に講師として参加し、地域での信用を得る。

● マスコミの利用

- ・ 地区や団の行事、トピックスなどを知らせていると、空きがあったときなどに 掲載してくれる。載った子も喜ぶし、宣伝効果が高い。
- ・ 諦めずに続けることが大事
- ・ 媒体別アプローチの仕方

新聞：市内版などは情報提供を呼びかけているので連絡してみる。

ニュースリリース（マスコミ売込み用資料）については次頁参照

市役所所記者クラブの利用も手（時間帯は13時半～14時が狙い目）

テレビ：市役所記者クラブまたは直接TV局の報道部か夕方ワイドの番組宛 時間帯は13時ぐらいと19時ぐらいが狙い目

ラジオ・ケーブルテレビ：個別に連絡 地元ケーブルテレビ局は取り上げてくれやすい。地区行事等も連絡をする。

フリーペーパー：編集室に連絡（連絡先は各紙紙面に掲載）

☆ボーイスカウトの認知度アップ

活動内容の紹介、体験入隊などイベントのお知らせ

外部広報と内部広報の違い

1、 内部広報 — 団内の保護者・リーダー・スカウト向け

活動の様子、リーダーの熱い思いなどを紹介し、活動の主旨や
様子がわかることで、保護者の信頼度アップ → 退団減
団の活動報告が、そのまま母親のロコミ資料になる → 入団増

2、 外部広報 ——— ボーイスカウトを知らない人向け。

ただし、みんなを対象にした広報は、心に響かないものとなり
やすい。ターゲットの絞り込みが必要。
入団増を考えるなら、子どもを持つ、30代の親 → 指導者増
孫を持つ50代～60代も狙い目の一つでは。

● ニュースリリースの作り方

連絡は必ず文書で ← 目立たせる工夫をし、記者に載せようと思わせるこ
とが大切・・・記者の中にボーイスカウトの理解者を作る。

1. どんなイベントか、何をするのか 色々あっても的をしぼり、何を伝えたいのかを考える
2. わかりやすいキャッチをつける。そのまま見出しに使えるものがベスト。
3. セールスポイントをつける。「市内で初めて」「県内最大」など。
4. ストーリーが必要。世の中の動きに連動させるとか、人間的関わりを書くとか、富士章取得の記事を売り込むなら、個人プロジェクトにまで触れる。
5. 必要であれば資料をつける 実施要綱・参加者名簿
(電話・住所などの個人情報には注意) など
6. イベント当日の担当者連絡先(携帯)を入れる
7. 土日は記者が休みの場合や、子ども向けの行事が多いので載りにくい。
8. 実施後であれば写真もつける。

注意するポイント

- ※ ボーイの用語は難しく、とっつきにくさは用語の問題もある。
→ 知らない人に読んでもらうなどでチェックする。
- ※ 理解してもらうためにどうするかを考える。
- ※ 取材を受けたあとは載らなくても必ずお礼を！

● その他の工夫

- ・ 体験入隊は子どもを遊ばせるだけでなく、プログラムの目的・教育効果などを保護者に説明することが大切。
- ・ スカウト数が少ないため、隊としての活動が困難な隊については、地域性を考慮した上でユニット化して複数団でプログラムを展開する。
- ・ 次代の指導者を育成するため、地区行事をR S・V Sが主体となって企画実行する。（ユース年代の活用）
- ・ 小学校・幼稚園・保育所のマップを作り、その地域の担当団が再度ボーイスカウト活動の紹介をして、新規入団希望者の掘り起しを図る。
- ・ 公民館や保育所で実施している「子ども向けの教室・サークル」に働きかけ、ボーイスカウト活動を理解してもらうと共に、新規入団希望者の掘り起しを図る。
- ・ 「おまつり」「スポーツ祭」などの参加団体となり、ブースを出店する。
- ・ 体験終了後、知り合いのスカウトや保護者がいれば、入隊を勧めてもらう
- ・ リーダーがたくさんいると、楽しく安心感がある雰囲気になるので、体験の日はR SやV Sが応援に。保護者にも活動の将来が見えて効果的である。
- ・ 体験入隊会の時はボーイのことを分かっている人が説明すると、入団に至りやすい（特にビーバー）
- ・ 「野球やサッカーはレギュラーになれないと輝けないが、ボーイスカウトはすべての子が輝ける」と説明する。
- ・ 中学校などで地区耐寒訓練優秀班の子を表彰してもらっている。
- ・ 親対象の入団説明会を開催。堅苦しくない内容で、歌なども交える。
- ・ スカウトたちに家に帰ったら活動の様子を必ず保護者に話すように教える。指導者はお迎えに来た保護者にも、活動での様子を伝える。子どもの話を聞いた保護者が感激 → ママ友達に話す → 興味を持ってくれと口コミがうまく回るようになる。遠回りだが保護者が熱心な応援団になってくれる。
- ・ 制服のリサイクルは、度が過ぎると汚く見えるので注意する。

●思ったように人が集まらなかったら

いろいろな角度から原因を究明する。

※ 原因を特定して次回に生かすためのものなので、誰かの責任を追及しないように注意する。

○ 考えられるありとあらゆる原因

- ・ 日にちが悪かった（学校行事の次の日とか地域の行事と同じ日とか、寒い日、暑い日、雨の日など）
- ・ 場所が悪かった（遠い場所 ← 会場は遠くても集合場所だけは近くに知らない場所 ← チラシにわかりやすい地図を入れる 行ってみたいと思わない場所 ← 場所の選定も大事）
- ・ 広報が行き届かなかった（チラシの配り方 ← 対象者全員の手に渡っていない。チラシの内容 ← 文字が多すぎる（イラストや写真を入れる一方的な押し付け文章やボーイ用語羅列もNG。ポスターが目立たない ← 1番に目立つ、2番に楽しそうなポスターを！）
- ・ ボーイスカウト自体の認知度が低い。（軍隊？ 宗教？と言われる）
- ・ ボーイスカウトのよさが伝わらない。（一度に伝えるのは無理だけど・・・）
- ・ プログラムがおもしろそうじゃない。（子どもを呼ぶ目玉がない）
- ・ 野球やサッカーの方が魅力的に見える。
- ・ 他に行く子がない。（一人での参加は躊躇する人がいる）
- ・ 行くと無理やり勧誘されそう。
- ・ ボーイスカウトはお手伝いが大変と、一般の保護者の間で思われている。

● 問題点

- ・ 無料のイベントだと思っている人がいて、入る気もないのに毎年来る。電車代や材料費などがかかる場合はその分を団が負担することになるのが問題

案① 有料化してはどうか ←教育委員会の後援をとる時は予算案と収支報告が必要

案② 定員制にして1回目の人を優先する

案③ お金のかからない方法で開催し、入る気のない人も受け入れる。 地域

に好かれるボーイスカウトとしてアピール。

- ・ 学校や学年、男女のばらつきがでてしまう。特に口コミで集めていると友達を呼ぶので偏りやすい。
- ・ お母さんリーダーが活躍していると、親が大変と言う噂だけが広がる。楽しんで参加していること、強制ではないことを本人から説明してもらう。
- ・ 人数が減る → 親の手伝いが大変 → 行事を減らす → 面白くなって人数が減る→悪い方へ回ってしまうとダメ（負の連鎖）

● 保険について

- ・ 1日のみ有効のスポーツ保険を利用
 - ・ 体験に来た子は1人ずつ1年間有効の、個人のスポーツ保険に入れている（500円徴収・手間が煩雑）
 - ・ 保険なし。
 - ・ 保険がかかっていないことを保護者に説明し、保護者同伴で行なう。
 - ・ 体験入隊会当日のみ団体スポーツ保険をかけ、その後の見学時は保護者同伴、各家庭の責任で活動してもらう。
 - ・ 下の子がいる人は保護者同伴がネックになっている。
- * 何か事故があってからでの対応では遅い。事前に検討し対応しておくことが重要である。

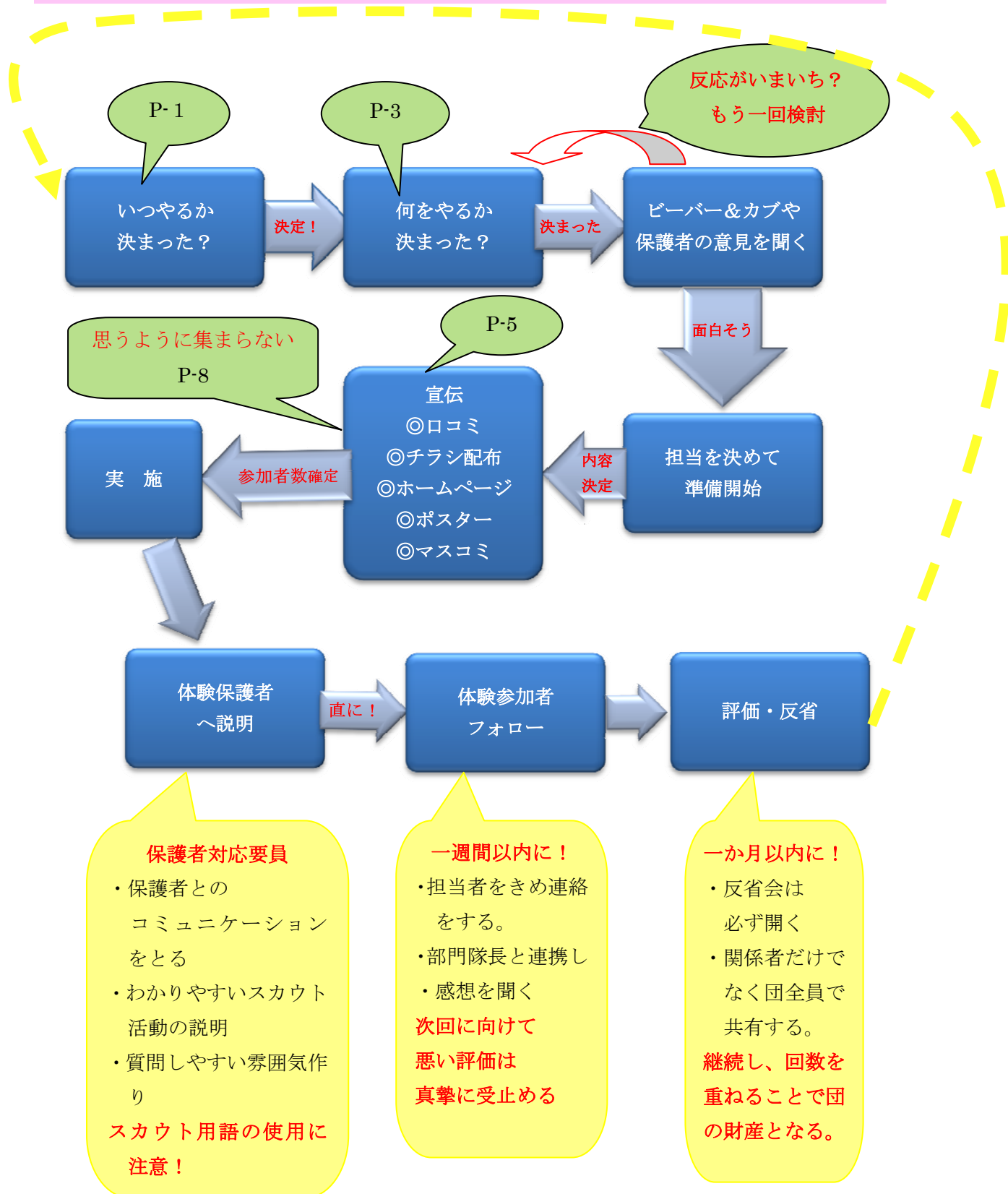
実施しただけで終わっては、広報という視点では目標を達成したことになるかもしれないが、組織拡充、新規登録者の確保という視点から、**その後の連絡フォローアップが重要。**

時間を置かずに、電話やハガキなどにより**担当（選任組拡委員）を決め継続して連絡をすることが重要。**

* 別紙ヒント集のフロー図を参考に。

* 2013.07.15 組織拡充委員会

スタート！ さあやってみよう！



ボーイスカウト 体験

「ここでしか学べないことがある」



連絡先：

ボーイスカウト

「野外で遊びながら育てよう」



パパ・ママ・キッズ ワンデイ キャンプ

参加者募集!!

日 時 平成24年7月22日(日) 9:00受付 9:30開始～16:00終了予定

場 所 浜松市青少年の家

対 象 小学校1年生～2年生 ・ 幼稚園年長

定員数 30名(定員数はお子様の人数です 保護者同伴をお願いします)

参加費 無料(保険代のみ実費¥30 当日参加人数分ご持参ください)

持ち物 長ズボン・長袖シャツ・水筒・帽子・軍手等

お申込み期間 平成24年6月25日～7月5日(お申込みいただいた方には、詳細をお知らせいたします)
(お申込みが定員数になりましたら打ち切りとなりますのでご了承ください)

野外料理

自然の恩恵に感謝しながら、みんな
でおいしいものを作って食べよう!

かまどでホイル焼き!
たき火ソーセージ



こうさく

森の自然物を利用して作ってあそべる
工作をしよう!



森の遊び

緑あふれる森の中で、自然観察
や五感を使ったゲーム。
見たり、嗅いだり、触ったり・・・
みんなでいっぱい遊んで、自然と

☆ 自然の中で
子供と一緒に遊びましょう!



お申し込み・お問い合わせ先
ボーイスカウト浜松東地区(6団、15団、21団、22団、24団、30
団)

*FAX
*電話・携帯

*メール:



☆ ボーイスカウト活動のご紹介もさせていただきます。
主催: 社会教育団体 日本ボーイスカウト浜松東地区
後援: 浜松市教育委員会



Part 1.



立ちカマド

Price 4d.



スカウトフェアー2013

テーマ 「みんな！あつまれ～」

勇気！ふれあい！思いやり！希望！

開催日時 平成25年5月26日（日曜日）
午前10：00～午後2：00

会場 狩野川リバーサイドパーク

飲食コーナー

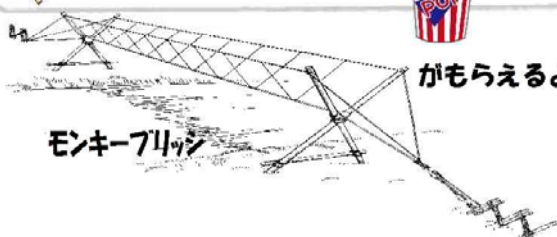
- ジュース
- 焼き鳥
- カレー
- 焼きそば
- かき氷
- フランクフルト
- 3-3-お菓子釣り



遊び場と体験コーナー

防災体験もあるよ

- たんか作り
- ロープワーク
- 三角きん
- 起震車体験コーナー
- モンキーブリッジ
- 信号塔



がもらえるよ！！

モンキーブリッジ



主催 スカウト展実行委員会（実行委員長 大仁第1団 土山 惟之）
ボーイスカウト大仁第1団 ガールスカウト静岡県 第104団
後援 ボーイスカウト三島地区 伊豆の国市教育委員会

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

